

放射線・線量委員会

当委員会の役割と中期 3 年間の活動方針は、以下である。

- (1) 医療機器及びその関連機器の放射線・線量に関する懸案事項に対し、機器による放射線・線量管理の在り方や、線量の低減などの線量に関する事項の検討を行い、各懸案事項に対する課題を明確化する。
- (2) 課題への対応方針の決定及び決定に沿った当工業会各関係部会・委員会、並びに国内外の関係団体（日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、医療被ばく研究情報ネットワーク、DITTA/AdvaMED〈旧 MITA〉、IEC/DICOM）との連携を図り、取り組みについてのステークホルダー（行政、会員企業、使用者、一般等）への発信・対話を充実させていく。

これらの活動により、JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2030 の第 1 のビジョン「関連団体（産業界・学会）、行政機関、新たな医療産業分野とのより積極的な協働」に貢献する。

2025 年度は、従来からの活動を通じて得た情報やネットワークを効果的に活用して、以下を推進する。

1. 「データが変える医療」の実現に向けた環境整備

医療情報のひとつである放射線・線量管理、その応用は、画像医療システム産業の発展に不可欠である。

放射線・線量管理の分野は、線量管理そのもの以外にも、機器保守管理、医療情報との連携、等と幅広く、またこれらを推し進めるには経済的効果も必要である。

これらの充実・実現に向けて、当委員会は、各部会・委員会、行政機関、使用者団体、関連工業会などの国内外の関連団体と積極的な協調を行い推進する。

2. グローバル市場での競争力の強化

国際機関や各国・地域へのグローバルな提言活動を強化するために、国際・海外の関連団体に参加し、放射線・線量管理に関する対応案を提示する。

2023 年 11 月に日本で初めて開催された ICRP2023（The 7th International Symposium on the System of Radiological Protection）での JIRA ブース展示などを通じて、ICRP コアメンバー・量子科学技術研究開発機構（QST）・JSRT などと良好な関係を構築し、さらに 2024 年 10 月の第 1 回 JCRTM（JART/JSRT の初の合同学会）での JIRA ワークショップを通じて JART/JSRT と良好な関係を構築したので、これら関係を維持して行く。

また、RSNA 時に開催される AdvaMED-XR 会議への参加を継続し、日本やアジアの取組み（Japan DRLs2025、ADRL など）が、グローバルの視点からはどのような位置付けとなっているのかを確認し、将来の方向性に合致するアクションへつなげる。

3. JIRA 産業の振興と関連領域との連携強化

放射線診断機器に対する線量最適化に対し、関連団体が推進する各種活動と協調して、診療報酬改訂、標準化規格・関連法制度整備及び医療現場への情報提供を推進する。

2025 年度は、2024 年度に Japan DRLs2025 の策定のために各施設にて線量調査が行われた際にどう線量管理システムが活用されたかを学会の有識者と調査し、Japan DRLs2030 の調査(2029 年度と推定)までに、メーカーとして対応すべき点をクリアにすることを目指す。

Japan DRLs2025 に向けた J-RIME DRL WG や日本消化器がん検診学会「胃X線検診におけるDRL策定委員会」の参加を継続する。

医療放射線防護連絡協議会等に参加し、国内外の放射線防護活動の情報収集を行う。

4. 線量管理・放射線被ばく防護関連情報の発信

グローバルな戦略的広報活動の推進を通じた情報発信のために、国内外関係団体からの情報収集及び委員会の検討結果などの広報活動を、広報委員会と協調して行う。